

ICT を活用した保育者研修会の実践的研究

—幼児期の運動遊びにおける指導法の質的向上を目指して—

A Practical Study of Childcare Seminar Using ICT :
An Attempt to Improve Quality of Teaching Skills of Physical Play in Early Childhood

黒原貴仁*・廣瀬勝弘**
Takahito Kurohara, Katsuhiko Hirose

*鹿児島女子短期大学 **鹿児島大学教育学部

抄録：本研究は、保育者研修会において、幼児期の運動遊びにおける指導法の質的向上を目指して、現在教育機関で注目されている、ICT (Information and Communication Technology) を活用して行い、研修内容の構築や ICT 活用の効果を検証することを目的とした。その結果、保育者研修会において ICT を活用して行うことにより、研修会に直接的に参加していない保育者にとっても有意義な研修となったこと、さらに、本研修テーマであった、運動遊びの指導法を取り入れた保育実践への意欲が高まったことが明らかとなった。今後の課題として、保育者のニーズにあった研修会の構築や ICT を用いる際の簡易化された活用手段などが示された。

Key words：運動遊び、ICT、保育者、研修会

1. はじめに

1-1. 保育者研修会について

保育者を対象とした研修会は、都道府県や市町村ごとに、様々な団体や保育機関により、毎年多数実施されている。保育者研修会では、「地域子育て支援」や「幼児期における発育発達の課題」、「保護者支援の実践力の向上」など、その内容は多岐に渡り実施されている。厚生労働省は、2013年10月「保育者を支える保育士の確保に向けた総合的取組」をまとめ、保育士の人材確保についての取組を公表した。さらに、2015年1月「保育士確保プラン」を公表し、平成29年末には保育士が6.9万人不足することを試算した。「保育士確保プラン」の4つの柱のひとつに人材育成を挙げており、学生への実践的実習促進だけでなく、研修による現役保育士を対象とした専門性の向上および育成強化を推進し、人材確保だけでなく、子どもにとっての保育の質確保および質向上のための研修を今後の課題として策定した。

保育所保育指針<平成20年告示>第7章 職員の質向上には「保育所全体の保育の質の向上を図るため、職員一人一人が、保育実践や研修などを通じて保育の専門性などを高めるとともに、保育実践や保育の内容に関する職員の共通理解を図り、協同性を高めていくこと。」とある。さらに、

施設長の責務において、「職員及び保育所の課題を踏まえた保育所内外の研修を体系的、計画的に実施するとともに、職員の自己研鑽に対する援助や助言に勤めること。」と記されており、児童福祉施設として社会的な役割を担う保育所は、職員一人一人が意欲的に研修や自己研鑽できるような研修体制を構築する必要があるとされている。

しかしながら、矢藤ら (2012) による地方自治体の保育士研修の運用調査においては、研修に参加する体制づくり、研修予算の確保が課題とされ、保育者の専門性育成および保育の質確保として期待される研修は、提供されている研修、あるいは園内研修など、十分に整えられていない現状がある。

量および質を考えた研修会が行えていない現状として、筆者が行なった施設長へのヒアリング調査では、「充実した研修を行いたい、研修会を開く時間がない」や「園児がいるため研修会を開催する場合は勤務時間外に行わなければならない」、「勤務時間外となるため強制はできない」という回答があった。また、保育者へのヒアリング調査では「研修会に参加したい、日々多忙のため参加することができない」や「1日の業務だけでも大変なのに研修会は考えら

れない]、「参加してもフィードバックする時間がない」という回答があった。このような状況を変えなければ、保育の質的確保は難しいと考えられる。

1-2. ICT (Information and Communication Technology) 活用について

文部科学省は「教育の情報化ビジョン」(2011年、文部科学省)を示すとともに、ICT (Information and Communication Technology) を活用した学校教育のあり方を提言した。その中では、教員養成を行う大学や教職大学院等においては、「教職課程等において情報端末・デジタル機器やソフトウェアに触れる機会の充実」が揚げられ、さらに「ICT活用指導力については、情報系の科目のみならず、教職課程における様々な授業科目の中で、大学教員が情報通信技術を活用して教えることが、教育効果を高める上でも、また学生が将来学校で情報通信技術を活用して指導できるようになるためにも重要と考えられる。」と示された。近年、ICTを活用した学校教育に関する実践研究が多くみられる。

ICTを活用した授業の有効性については、文部科学省が授業における効果的なICT活用の一層の促進を図るために作成した「ICT活用指導ハンドブック(2007)」において、「知識・理解、関心・意欲、思考力・判断力が向上する」、「情報の整理や共有で校務の効率化が図れる」、「家庭や地域に情報発信することができる」など、挙げられている。黒原(2015)は、「大学体育における反転授業」を行った際、「学習における理解度および意欲の向上」、がみられた。その要因として、対象者へのアンケート調査より「自身の自由な時間に何度でも確認することができる」ことが有効性につながったと述べている。

1-3. 幼児期の運動遊びについて

近年、子どもの体力・運動能力の低下・学力の低下あるいは健康状態の悪化などが懸念され、幼児期における身体活動研究の分野では、身体を動かすことの価値を見直されつつあり、幼児期の運動やスポーツに対する保護者からのニーズは高まりをみせている(Benesse, 2006)。

文部科学省は平成19年度から21年度に実施した「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動の在り方に関する調査研究」を行った。その結果、「より多くの友達と活発に遊びを楽しむ幼児ほど運動能力が高い傾向にあり、外遊びをする時間が長い幼児ほど、体力が高い傾向にあった。」と報告している。さらに、文部科学省は2011年に「幼児の心の状態と幼児の運動能力」を調査し、体力総合評価結果より、「積極的に体を動かす幼児は、やる気、我慢強さ、友達関係が良好、社交的などの前向きな性格傾向にあり、

園で体を活発に動かすとやる気の関係において、体を活発に動かす頻度が高い幼児ほど不活発な幼児に比べていつもやる気がある比率が高くなっている」と報告した。幼児期の運動遊びは、体力・運動能力に影響しているだけでなく、意欲や気力の減弱、対人関係などコミュニケーションを上手に構築できないなど、子どもの心の発達にも大きな影響を及ぼすといっても過言ではない。

子どもと日中の生活のほとんどを共に過ごす保育者が上述したことを理解し、効果的な運動遊びを保育実践に取り入れていくことは、子ども自身だけでなく、今後の社会全体にとっても大きな意味を持つと考えられる。

2. 本研究の目的

本研究は、幼児期の運動遊びにおける指導法の質的向上を目的とした保育者を対象とした研修会を、現在教育機関で注目されている、ICT (Information and Communication Technology) を活用して行い、研修内容の構築やICT活用の効果を検証することを目的とする。

3. 研究対象

本実践における対象者は、鹿児島県A市にある私立保育園2施設に勤務する保育者29名(常勤、非常勤の保育者を含む)を対象に行った。なお、本2施設は同社会福祉法人が経営を行っている。本研修会は、研究対象2園のデイリープログラムで設定されている午睡の時間を利用した。

4. 研究方法

4-1. 研修会の内容について

研修内容としては、事前の施設長との打ち合わせにより、「幼児期における運動遊びの留意点」とした。文部科学省が平成24年3月に策定した「幼児期運動指針」及び「幼児期運動指針ガイドブック」、東根(2015)「幼児のためのコーディネーション運動」をもとに研修会内容を構築した。また、中村らが提唱する「幼児期に身につけておきたい36の基本動作」及び「7つのコーディネーション能力(ブルーム、1991)」の要素を効果的に取り入れた動きを研究対象園の施設の遊具で行うことができる運動遊びに置き換えて紹介した。

4-2. ICTを用いた研修会実施方法および内容

本研究は、鹿児島県A市にある私立保育園2施設の保育者を対象とし、「幼児期の運動遊びの留意点」として題した研修会をデジタルビデオカメラ2台で録画し、研修会講師と打ち合わせを行い、要点やポイントを編集した動画を

Web 上にアップすることでどのような効果があるのかを検証することである。なお、本研修会には、上記2施設よりB園5名、C園3名の計8名の保育者が参加をしている。

研修会の実施にあたり、研修会専用 Web サイトを開設し、研修会終了後に指定した動画ファイルを確認するように指示した。受講者には、研修会時に「研修会専用 Web サイトの URL」、「ログイン名」、「パスワード」を通知した(図1)。動画アップ後10日後にアンケート調査及び自由記述式アンケート調査、ヒアリング調査を実施した。アンケート調査項目は、「対象年齢」「視聴の有無と回数」、「視聴場所」、「視聴機器および時間帯」、「動画についての質問(動画の長さ<時間>について、動画のわかりやすさについて、動画が保育実践にいかされたかについて、動画を視聴することによっての保育実践への意欲向上について)」の質問を行った。



図1 IDとパスワードの認証画面

5. 動画の収録方法および内容

5-1. 動画収録方法

動画収録はデジタルビデオカメラ2台で行い、その後動画編集ソフトで編集し、その後ホームページにアップした。90分の研修会に対し動画全体の時間は13分46秒であった。

研修会講師と4回の打ち合わせを行い、重要ポイントとなる説明は字幕およびモニタージュ等を使用し、保育者がより効率よく理解できるような工夫を施した。

5-2. 動画の内容について

動画前半

・本研修会におけるテーマを作成資料をもとに説明(図2)
運動発現のメカニズムにおける刺激から反応へのプロセスへの説明を行なっている。幼児期においては多様な刺激(運動)を実施し、神経ネットワークを強化することが必須であり、そのためには多様な動きの経験がより大切になってくると解説している。また、コーディネーショントレーニングの7つ能力を理解してもらい、運動遊びの中に取り入れる必要性を説明している様子である。

動画後半

・対象園で行える効果的な運動遊びの紹介
対象園にある遊具で行うことができる運動遊びをその動きの構造と高められると考えられる能力について説明を加えながら実践している。表1は実践内容事例である。マットを使った運動遊びでは、「クモ歩き」や「アザラシ歩き(図3)」、「転がり遊び(図4)」、「レッグじゃんけん(図5)」

表1 対象園における運動遊びの事例紹介

マットを使った運動遊び	平均台を使った運動遊び	デコボコブロック
正座から立つ (180度向き換え)	歩き & ブラインド 歩き	歩き & 川渡り
ペンギン歩き	1本橋じゃんけん	2カ所にてジャン プターン(連続)
くまさん歩き	アメンボ跳び	連続ターン(2人で 競争)
アザラシ歩き	パーからグーで ジャンプ立ち	トンネル & 跳び箱
クモ歩き	ジグザグジャンプ	トンネル内での入 れ替わり
転がり遊び(2人)	ジャンプオーバー	踏切 & ジャンプ
2人転がり	1本橋で入れ替わ り	ポーズ遊び坂歩き
ジャンプ & ロール (3vs3)		
レッグじゃんけん		

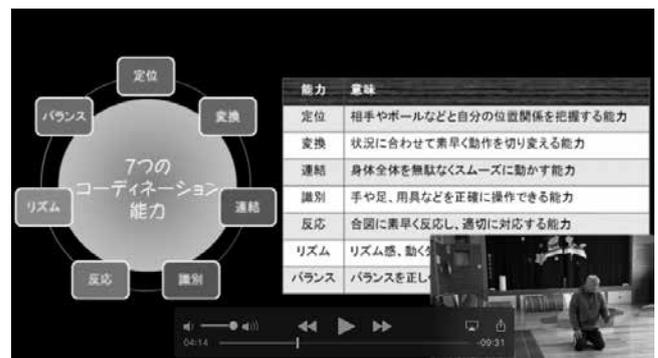
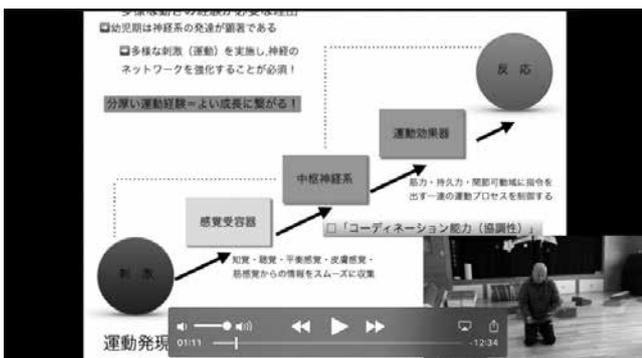


図2 運動発現および7つのコーディネーション能力の説明



図3 アザラシ歩き



図4 転がり遊び



図5 レッグじゃんけん



図6 歩き&川渡り



図7 運動遊びの指導上の留意点

などを紹介し、さらに動きを同調することによって、より効果が高まることも解説しながら行なっている。平均台を使った運動遊びでは、「アメンボ跳び」や「パーからグーでジャンプ立ち」など、平均台という遊具を使用した遊びを提案している。デコボコブロックおよびトンネルや跳び箱を使った遊びでは、「歩き&川渡り（図6）」や「踏切動作」などについて解説を交えながら提案し、簡単な動きや動作を保育者自身が意図を持って遊ばせることが重要であることを説明している（図7）。

6. 結果と考察

6-1. 対象年齢について

本実践対象者の年齢構成は「20歳以上30歳未満（27.6%）、30歳以上40歳未満（20.7%）、40歳以上50歳未満（31.0%）、50歳以上60歳未満（10.3%）、60歳以上（10.3%）」であった（図8）。短期大学を卒業した直後の初任者や40年以上勤務しているベテラン保育者まで年齢層は幅が広がった。

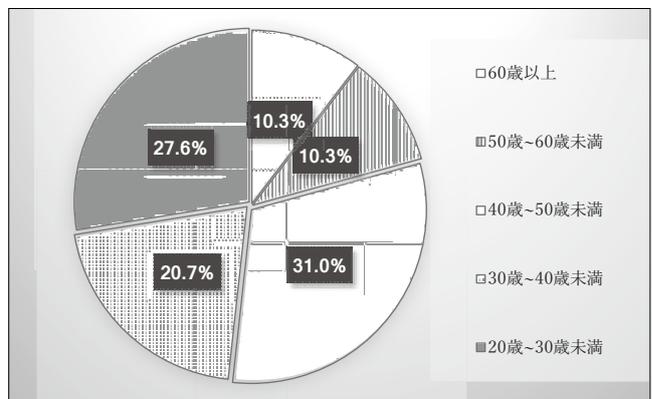


図8 対象保育者の年齢構成について

6-2. 動画の視聴率について

動画の視聴率について調査した結果、93.0%の保育者が

動画を視聴し、6.9%の保育者が動画を視聴しなかったと回答した。動画を視聴しなかった理由として、「動画を見る時間がなかった。」「動画の視聴方法がよくわからなかった。」という回答があった。60歳以上のベテラン保育者もノートPCを使用し、動画を視聴していることから本実践への意識の高さを感じられる。ただし、「ログイン名やパスワードを入力することに戸惑った」という保育者もいたことから、動画を視聴する方法をより簡易化することができれば視聴率は向上すると推測される。

6-3. 動画の視聴回数について

図9は動画の視聴回数である。1回視聴した保育者は51.9%であり、2回視聴した保育者は44.4%であった。また、3回以上視聴した保育者は3.7%であった。自由記述式のアンケート結果より、「仕事をこなすだけで1日がすぐ終わってしまう為、このような短い動画で勉強できるのはありがたい。」や「インターネットを利用しての研修は初めてでしたが、新鮮でとても良かったと思います。」「研修の際、ノートに記録は取っていましたが、動画があることでより振り返るがしやすいと実感しました。」という回答があった。

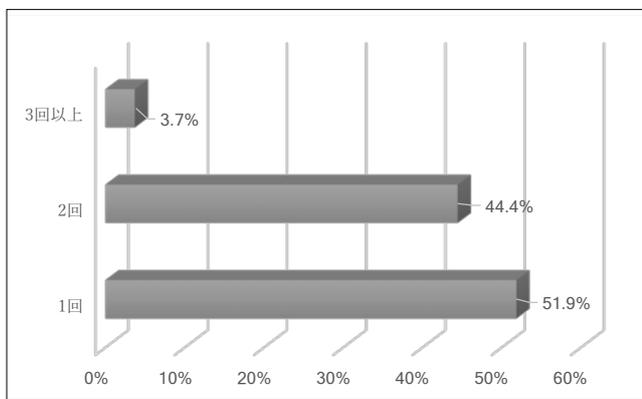


図9 動画の視聴回数について

6-4. 動画の視聴場所について

動画の視聴場所について調査した結果、自宅が92.6%であり、勤務している保育園内での視聴が7.4%であった。アンケート選択欄には、通勤途中、喫茶店等あったのだが、自宅と保育園での視聴であった。その理由として、ほとんどの保育者の通勤手段が自動車であるということが関係していると推測される。

6-5. 動画の視聴機器および視聴時間帯について

動画の視聴機器は、スマートフォンでの視聴が最も多く(72.4%)、次いで、ノートPC(13.8%)、タブレット端末

(10.3%)、ディスクPC(3.4%)であった(図10)。自由記述式アンケート調査結果より、「携帯で気軽に時間があるときに見ることができるのもとてもありがたかったです。」という回答があった。また、「保育者それぞれ、負担にならないように自身が動画を視聴したい時に、自由にみることができるので、非常に助かる。」という回答があった。

動画の視聴時間帯として、「21:00~24:00(35.5%)」、「18:00~21:00(29.0%)」、「6:00~9:00(16.1%)」の順で動画を視聴していた(表2)。施設長には、事前にデイリープログラムで設定されている午睡の時間など、勤務時間中に動画を視聴することも了解してもらっていたのだが、勤務時間帯以外に視聴する保育者がほとんどであった。

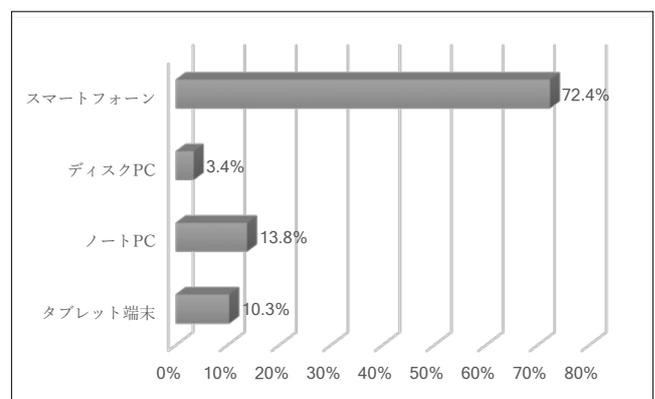


図10 動画の視聴機器について

表2 動画の視聴時間帯について

時間帯	6:00-9:00	9:00-12:00	12:00-15:00	15:00-18:00	18:00-21:00	21:00-24:00	24:00-3:00	3:00-6:00
視聴率	16.1%	3.2%	9.7%	3.2%	29.0%	35.5%	3.2%	0%

6-6. 動画の長さ(時間)について

動画の長さ(時間)については、ちょうど良い(83.2%)、やや短い(12.0%)、やや長い(4.8%)であった。自由記述式アンケート調査結果より「仕事をこなすだけで1日がすぐ終わってしまう為、このような短い動画で勉強できるのはありがたい。」や「もう少し長くても良い」という回答があった。今回は90分間の研修会を13分46秒に編集した。保育者が負担に感じない動画の長さや内容を精選することがさらに求められると考えられる。

表3 動画の長さ(時間)について

長い	やや長い	ちょうど良い	やや短い	短い
0%	4.8%	83.2%	12.0%	0%

6-7. 動画のわかりやすさについて

動画のわかりやすさについては、良い (74.1%)、どちらかといえば良い (25.9%) であった (表4)。自由記述式アンケート調査結果より「わかりにくい部分は当日実際に研修会に参加した保育者に聞くなどして理解した」や「普段は子どもらの様子などのやりとりが多いが、保育実践についての話し合いができた。」「研修を受講できなかった職員とも動画で共通理解ができ、実際に保育に導入する際に導入しやすかったです。」など、今回得られた情報を共有する姿勢がみられたと回答があった。

表4 動画のわかりやすさについて

わかりやすい	ややわかりやすい	わかりにくい	わかりにくい
74.1%	25.9%	0%	0%

6-8. 動画の視聴が保育実践でいかされるかについて

動画の視聴が保育実践でいかされるか調査したところ、「はい (88.9%)」、「どちらかといえばそうだ (11.1%)」であった (表5)。また、自由記述式アンケート調査結果より「他にも絵本、障害児への対応、玩具、指遊び、食育、声かけ、保育士による虐待等勉強できたらと思います。」という回答があった。

表5 動画の視聴が保育実践にいかされるかについて

はい	どちらかといえばそうだ	どちらかといえばいいえ	いいえ
88.9%	11.1%	0%	0%

6-9. 動画の視聴したことで保育実践への意欲が高まったかについて

動画を視聴したことで保育実践への意欲が高まったかを調査したところ、意欲が高まった (92.6%)、どちらかといえばそうだ (7.4%) であった (表6)。自由記述式アンケート調査結果より、「遊び方を工夫することで発達を促すことができるということを改めて感じることができました。日頃の保育を振り返り今後に活かしていきたいと思います。」や「幼児期のうちに様々な体験をさせることの大切さわかりました。遊びの中で多様な動きを体験できるような保育活動をして行こうと改めて思いました。」「運動 (遊び) を通して、刺激を与えていく必要性、遊びの大切さを再確認した。遊びを通し、保護者の意図するものを明確に取り入れていく。凸凹ブロックの遊び方や働きがよくわかり、

これからの活動にいかせていける。遊びを通して、身体を動かす楽しさを知らせていきたと思います。」という回答があった。

表6 動画の視聴が保育実践への意欲が高まったかについて

はい	どちらかといえばそうだ	どちらかといえばいいえ	いいえ
92.6%	7.4%	0%	0%

7. まとめと今後の課題

本研究は、幼児期の運動遊びにおける指導法の質的向上を目的とした保育者を対象とした研修会を、現在教育機関で注目されている、ICT (Information and Communication Technology) を活用して行い、研修内容の構築や ICT 活用の効果を検証することである。

保育者研修の内容については、施設の遊具で行える運動遊びを提案し、その動きの構造、高められると思われる能力について解説を加えながら紹介することによって、保育者の満足度も高かった。保育研修は現場の保育者のニーズを調査し、内容を構築する必要性が示唆された。

ICT を活用した研修については、動画の視聴率について調査した結果、93.0%の保育者が動画を視聴し、1回視聴した保育者は51.9%であり、2回視聴した保育者は44.4%、3回以上視聴した保育者は3.7%であったことから本実践への関心の高さが示された。また、動画の視聴機器は、スマートフォンでの視聴が最も多く (72.4%)、次いで、ノート PC (13.8%)、タブレット端末 (10.3%)、ディスク PC (3.4%) であった。動画の視聴時間帯として、「21:00~24:00 (35.5%)」、「18:00~21:00 (29.0%)」、「6:00~9:00 (16.1%)」の順で動画を視聴していた。研修会を行う上で、負担感の軽減が必要不可欠であったが、自由記述式アンケート調査より、「携帯で気軽に時間があるときに見ることができるのもとてもありがたかった。」また、「保育者それぞれ、負担にならないように自身が動画を視聴したい時に、自由にみることができるので、非常に助かる。」という回答があったことから、対象保育者は、自身の時間が空いている時間を有効活用し、動画を視聴し、研修を実施することができたことが示唆された。

「動画の視聴が保育実践でいかされるか」について調査した結果、「はい (88.9%)」、「どちらかといえばそうだ (11.1%)」であった。また、「動画を視聴したことで保育実践への意欲が高まったか」について調査した結果、「意欲が高まった (92.6%)」、「どちらかといえばそうだ (7.4%)」

であった。この結果より、ICT を活用した本実践が、保育実践への関心や意欲を高めることができたことが示唆された。

今後の課題として、ICT を活用した研修内容のさらなる精選、保育者のニーズに沿った内容の構築、動画を視聴する方法の簡易化などが示唆された。

謝 辞

本稿を投稿するにあたり、ICT を活用した保育研修会「テーマ：運動遊びの留意点」の実施およびアンケート調査にご協力いただいた当該保育園の施設長・保育者に対して感謝する。なお、個人情報保護の観点から保育園名は記載しない。

参考文献・参考資料

- 東根明人 体育授業を変えるコーディネーション運動65選、明治図書：2005
- 東根明人 幼児のためのコーディネーション運動、明治図書：東京、2015
- 黒原貴仁 大学体育における反転授業についての一考察－女子短期大学生を対象としたバレーボールにおける実践研究－、鹿児島女子短期大学紀要第51号 pp.53～59. 2016
- 厚生労働省編 保育所保育指針解説書フレーベル館、2008
- 厚生労働省 「保育を支える保育士の確保に向けた総合的取組」、2013
- 厚生労働省 「保育士確保プラン」、2015
- 文部科学省 幼稚園教育要領解説フレーベル館、2008
- 文部科学省 「教育の情報化に関する手引き」、2010
- 文部科学省 「教育の情報化ビジョン」、2011
- 文部科学省 「体力向上の基礎を培うための幼児期における実践活動のあり方に関する調査研究報告書」、2011
- 文部科学省 「幼児期の運動指針」、2012
- 文部科学省 「幼児期運動指針ガイドブック」、2012
- 日本保育協会 「保育所における人材育成の実態に関する調査報告書」、2015
- 山内裕平・大浦弘樹監修 反転授業、オデッセイコミュニケーションズ：東京、2014
- 財団法人 コンピュータ教育開発センター 文部科学省委託事業「ICT 活用指導ハンドブック」、2008

(平成29年1月18日 受理)